



令和元年8月17日（土）岐阜県発表資料

担当課	担当係	担当者	電話番号
保健医療課	感染症対策係	居波 由紀子	内線 2543
			直通 058-272-8270
			FAX 058-278-2624
子育て支援課	保育支援係	汲田 淳	内線 2634
			直通 058-272-8336
			FAX 058-278-2880

保育所での腸管出血性大腸菌感染症（O26）の発生報告

江名子保育園（高山市内）の園児2名が、腸管出血性大腸菌感染症（O26）を発症していることが確認されましたのでお知らせします。

なお、当該園児はいずれも快方に向かっています。

1 施設

名称：^{えなこほいくえん}江名子保育園

（設置者：社会福祉法人高山社会福祉会 理事長 ^{たにくち としゆき}谷口 敏征）

所在地：高山市江名子町2788-1

園児：140人（全7クラス：3～5歳児4、2歳児1、1歳児1、0歳児1）

職員数：26人

2 概要

- 8月14日（水）、高山市内の医療機関から飛騨保健所に、腸管出血性大腸菌感染症（O26）が発生した旨届出があった（園児A）。同日、飛騨保健所が園児Aの調査を実施。園児Aの通園している保育所を調査したところ、同クラスに症状を有する園児が、他に4名（園児B～E）いることが判明したため、症状を有する園児及び関係職員（5名）に対して健康診断（検便）の実施を開始。
- 8月16日（金）、同クラスで新たに1名（園児F）が症状（軟便）を示したため、健康診断（検便）の対象を同クラス全員（園児Fを含む16名）に拡大して実施。また、他クラスの4名も症状があったことから、その4名も対象とした。
- 8月17日（土）、飛騨保健所での検査で、園児Bが腸管出血性大腸菌感染症（O26）を発症していることが判明。園児C、D及び関係職員は陰性であることが確認され、その他の園児は現在検査中。有症状者に入院した者や重症者はなく、全員快方に向かっている。

園児	届出日	年代	性別	症状等
A	8/14	幼児	男	8/3～発熱、水様性下痢、8/10 近医受診
B	8/17	幼児	女	8/6 軟便、8/8 腹痛

感染者及び家族等の個人情報については、プライバシー保護の観点から特段の御配慮をお願いします。

3 対応（まん延防止対策）

- 飛騨保健所は、園児、関係職員及び患者の家族に対して原因究明のための調査を実施。
- 園では、8月14日（水）に感染拡大防止のための園内の消毒等を実施。
- 保健所と保育所が連携し、保護者に対し、日常生活における二次感染拡大防止の徹底を指導。

○ 腸管出血性大腸菌感染症とは

大腸菌の一種です。大腸菌は、家畜や人の腸内にも存在し、その大半は無害ですが、いくつかの種類が人に下痢などの消化器症状を起こすことがあり、それを病原大腸菌と呼んでいます。

病原大腸菌の中に、毒素を産生し、出血を伴う腸炎やHUS(溶血性尿毒症症候群)を起こす腸管出血性大腸菌があります。発生は、一年を通してみられますが、5月～10月に多く発生します。

<症状等>

症状がないものから軽度の下痢、激しい腹痛、頻回の水様便、さらに著しい血便とともに重篤な合併症を起こし死に至るものまで様々です。多くの場合、3～5日の潜伏期をおいて、激しい腹痛をともなう頻回の水様便の後に、血便となります。発熱は軽度で、多くは37℃台です。血便の初期には血液の混入は少量ですが次第に増加し、典型例では便成分の少ない血液そのものという状態になります。有症者の一部において、下痢などの初発症状発現の後に、HUSまたは脳症などの重症な合併症を発症することがあります。

<感染経路等>

菌に汚染された食品や、患者の便で汚染されたものに触れた手を介して起こる経口感染で、話しをしたり、くしゃみ、汗などでは感染しません。

病気を起こすといわれる大腸菌は約170種類ありますが、腸管出血性大腸菌感染症を起こすのは、O157、O26、O111、O103などの種類です。

【保健医療課からお知らせ】

家庭内でのO157、O26、O111、O103などによる腸管出血性大腸菌感染症の発生は、症状が軽かったり、発症する人が1人や2人のことが多く、かぜと思いきりこりして、手当が遅れると、重症になることもありますので、

①腹痛、下痢が続く時は、早めに医療機関に受診する。

②特に、便に血が混じっている場合は、医療機関へ直ちに受診する。

ことに心掛けてください。

<予防等>

○ 各家庭や食品関係施設においては、調理前や食事の前は、せっけんで手をよく洗いましょう。

○ 加熱して調理する食品は、中まで火がとおるように十分に加熱しましょう。

(目安は、食品の中心部の温度が75℃、1分間以上です。)

○ 調理された食品は、室温で長く放置せず、早めに食べましょう。

【県内の腸管出血性大腸菌感染症発生状況（令和元年8月17日現在）】

発生年	O26	O103	O111	O115	O157	その他	不明	合計
平成26年	6	0	1	0	24	6	0	37
平成27年	7	0	0	0	15	5	0	27
平成28年	6	4	0	3	35	2	0	50
平成29年	26	35	1	5	28	6	0	101
平成30年	20	3	2	5	21	10	3	64
令和元年 (平成31年)	4	3	2	0	29	9	28	75※

※本事案の患者を含む